

つきあい限定されていて、市井の人々の暮らしがあまり見えてこない。二年以上も仙台で暮らしたのだから、異国の四季の移り変わりを体感したり、一人で町に出て買い物をしたり、郊外で農家をのぞきこんだり、欧州人の常識からは理解に苦しむ、という場面が多々あった筈なのだが、この本に出てくるのは、何やらスッキリと割り切れるケースが多い。もしかすると、彼はもう一冊、西欧人として理解しにくい日本の見聞について、観察記を書くつもりだったのではないかと思わせるほど、そういう場面が抜けている。「そんなことを言っても、お前が2年暮らした国について、これほどのことが書けるか？」と言われたら、黙って引き下がる他はない。

巻末の45頁にわたるあとがきによると、北大独文科出身でドイツ語塾を営む訳者は、本書の原本を、東洋文庫の書庫で見つけたそうだ。原本は

1927年に刊行されているが、それはモーリッシュの帰国後わずか2年後のことである。当時は第一次世界大戦の敗戦国であるオーストリアは、厳しい生活を強いられただろうが、何冊かは日本の知人に送られたことだろう。しかしすぐに翻訳・出版の動きはなく、90年近く日本の人たちに知られることなく、今日におよんだのは、惜しいことだったと言うべきだろう。

(金井弘夫 H. KANAI)

[追記] 相馬悌介氏(当時1904–1999)は後に新潟大学教育学部教授、専門は植物生理学、同理学部生物学科でも植物形態学と同実験を担当された。東北大学理学部生物学教室五十年史(1980)に「モーリッシュ先生の思い出」を寄せている。同氏のMolisch関連図書は2015年にご子息相馬研吾氏(東京水産大学名誉教授)から東北大学図書館に寄贈された。

(大橋広好 H. OHASHI)

90巻 正誤(2015) Errata in Vol. 90 (2015)

ページ (Page)	カラム (Column)	行 (Line)	誤 (For)	正 (Read)
387	Fig. 1	cap.	TNS 865694	TNS 865691
395	right	↓ 14	Mt.Nakadake: [0] 17 Sep. 1979, (K.Sato 79.0084, SAPS 042050).	
396	right	↓ 13	SAPS 041945).	SAPS 041945). Mt.Nakadake: [0] 17 Sep. 1979, (K.Sato 79.0084, SAPS 042050).